

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 鞆ヶ谷 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○「読むこと」の領域では、正答率が全国平均を超える問題が多く、「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の領域では、正答率が全国平均を大きく下回る問題が多かった。 ○誤答だった問題は問題の聞かれていることや選択肢の内容が複雑なものが多かった。設問の内容を正確に理解する力をつける必要がある傾向だった。
	よくできた問題	読み取り問題では、物語の全体や人物像を具体的に想像し問題を解くことができていた。
	努力が必要な問題	漢字の問題では、部首やつくり等の一部の書き間違いが多く見られた。また、記述問題の記述ができていなかった。

算数	全体的な傾向や特徴など	○「データの活用」の領域では、正答率が全国平均を超える問題が多く、「数と計算」、「変化と関係」の領域では、正答率が全国平均を大きく下回る問題が多かった。 ○問題の証明を記述する際に、必要な数や言葉を省略して記述しているため誤答として扱われている傾向があった。
	よくできた問題	円グラフや折れ線グラフなど、グラフの数値を読み取る問題ができていた。
	努力が必要な問題	速さ・道のり・時間の関係の問題は誤答が多かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<p>○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に対して90%の児童が肯定的な回答をした。</p> <p>○学校以外の時間に1日当たりどのくらい勉強しているかという質問では、全国平均よりも学習に取り組んでいる時間が短い傾向にあった。しかし、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して、約半数の児童が否定的な回答をしており、自分で学習を行う時にはどのように取り組んだらよいのか困り感をもっているのかもしれない。</p> <p>○アンケート結果から、理科の学習に対する興味・関心は全国平均を上回っていた。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○校内でも、授業の組み立ての中で児童が自ら学習課題を捉えることができるような手立ての研究に取り組んでおり、自ら考えて行動できる児童の育成に力を入れている。全国学力・学習状況調査の結果からも「自ら取り組む」という部分で課題があるようなので、引き続き取り組みを進めたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○普段の宿題に加え、3年生以降の学年では自主学習の取り組みも行っている。必要に応じて自主学習の指導を行いながら、自分で学ぶことの経験を積ませたい。

○長期休業に入る前には生活や安全についての手紙を必ず家庭に配布している。今後も手紙等を通して必要に応じて共通理解を図りたい。

○本年度「大谷中学校区9年間の活動プラン」を作成したので、作成したものを基に小中で一貫した教育指導を行っていく。